

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 25 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20330113

研究課題名（和文） 現代社会における統制と連帯：階層と対人援助に注目して

研究課題名（英文） The control and solidarity in modern society
-- focusing on strata and human services

研究代表者

景井 充（KAGEI MITSURU）

立命館大学・産業社会学部・准教授

研究者番号：30340483

研究成果の概要（和文）：

長きにわたって日本社会の基盤であり続けてきた、日本独特の＜社会的なるもの＞が、1990年代後半に始まった新自由主義的な社会変革によって、急速に喪われつつある。このことを、社会階層やライフスタイルの変化、「心理主義」の広範な浸透、ケアの個人化、生命倫理に関する言説の変化に着目して、理論的および実証的に明らかにした。また、そうした状況を踏まえて、今後新たな社会的連帯を再構築するための基本的方向性を検討した。

研究成果の概要（英文）：

<The social> characteristic of Japanese society, which has been the base of Japanese society for long term, is rapidly disappearing in the neo-liberalistic structural reform since 1990s. We have clarify this demonstratively, taking notice of strata and change in life-style, infiltration of "psychologism", individualization of care and change in the bioethical discourse. Then, we have considered basic direction to re-construction, from now on, of new social solidarity in our society.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2009年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
2010年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
2011年度	2,200,000	660,000	2,860,000
年度			
総計	13,800,000	4,140,000	17,940,000

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：心理主義化、感情労働、社会階層、文化消費、ケア労働、連帯、社会的なもの

1. 研究開始当初の背景

本研究に取り組むに際しての問題意識は、今日の日本社会において、社会全体に及んで、いわゆる「個人化」や「心理主義化」、また文化の多元化と消費の多様化といった現象に見られるように、社会のいわゆる「液状化」と、それによる社会的「連帯」の喪失といっ

た、＜社会的なるもの＞の消失と言うべき事態が急激に進行しつつあることへの危機感であった。

＜社会的なるもの＞の喪失が顕著に現れる社会的領域として、まず第一に、社会的階層間の格差が拡大することによる社会的連帯の喪失が挙げられよう。そして第二には、ケアの個人化とアディクション等、さまざま

な病理現象の登場と拡大が指摘できるだろう。“社会的なるもの”の喪失は、異なる社会的階層の間ばかりでなく、同一の社会的階層の内部においてすら「他者」へのまなざしを消失させ、またしばしばケアを個別化して自己責任原則へと帰着させつつある。

2. 研究の目的

本研究は、主として階層分化、対人援助と、社会の「液化化」との連関を実証的に解明するとともに、それをふまえて、現代社会における新しい「連帯」の社会理論の構築を目指すものであった。階層分化と個人化、ケアの心理主義化の中で争点として立ち現れる承認構造を、プロジェクトメンバーの学術的背景を活かしつつ、個別具体的な事象に定位して、新しい「社会的連帯」の理論構築に繋げていくことを構想した。

3. 研究の方法

具体的には、本研究は二本柱となるプロジェクト、「階層化とライフスタイル」の定量調査と、「心理主義化とケア」をめぐる理論的課題の整理と検討、から構成されていた。

に関しては、平成22年度に実施した定量調査と、そこで設定した仮説的な理論構築・質問項目の妥当性に検討を加えながら、近年の階層化に関する議論、とりわけ「社会資本論」の理論的検討を通じて、新たな連帯の様式の可能性を探るとともに、「社会資本」と階層との関係を位置づけ直すという課題に取り組んだ。また、に関しては、近年のさまざまな学問領域における「対人援助」の心理主義化とみなせる事柄について、臨床心理士・カウンセラーの増配備といった制度的な背景、心理学的な手法の取り入れといったソフト面での背景について、社会史的事実確認と、対人援助の心理主義化に関する理論モデルを構築するという課題に取り組んだ。その中で、1)「承認と分配」、2)「社会統制と連帯」、3)「個人主義化とジェンダー」、4)「現代社会における自他の承認」、5)「心理主義の社会史」、6)「分配と承認を接続する論理の定位」、7)「尊厳死言説と承認をめぐる問い」を補完的テーマ群として設定し、メンバー各自の学問領域からの本研究課題へのアプローチを多元化・豊富化した。

4. 研究成果

現代日本社会における〈社会的なるもの〉

の消失という事態は、新自由主義的構造改革や、その背後にあるグローバリズムの進行という状況の中で、広範に進行するものとなっている。本研究の取り組みは、そうしたいわゆる「個人化」の進行・深化や社会の「液化化」という現象の深刻な問題点を実証的に把握し整理したうえで、〈社会的なるもの〉の再構築の方向性を展望することを目指してきたものであり、我々の今日的状況と深く切り結ぶものであることにその意義があると考えている。今後なお一層、「承認と分配」「個人主義化とジェンダー」「心理主義化」「尊厳死をめぐる承認の問い」そして「統制と連帯」というテーマの重要性は増すと考えており、したがってまた今日的状況を踏まえて新たな〈社会的なるもの〉を構想する営為は、いよいよ重要なものとなると考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計48件)

- 1、景井充、2012「現代社会における統制と連帯」、科研費報告書(基盤B)査読無、巻数無し、総228頁
- 2、崎山治男「仏教ホスピスにおける相互行為の技法」『産業社会学論集』47-4,pp.69-80、査読有、2012
- 3、崎山治男2012「社会と感情が交差する地点に向けて」『生存学』5号、査読有り、pp.206-216
- 4、景井充、2011「現代日本における閉塞の構造 “道徳的包摂の観点から”」『唯物論研究ジャーナル』唯物論研究協会、巻数無し、査読無し、pp.1-9
- 5、中井美樹、2011、「女性のキャリア動向 - 「社会階層と社会移動全国調査」データから見る女性の就業実態とその変容 - 」『季刊家計経済研究』89号:査読有11-21頁。
- 6、Nakai Miki, 2011, "Social Stratification and Consumption Patterns: Cultural Practices and lifestyles in Japan," S. Ingrassia, R. Rocci, M. Vichi (eds.) New Perspectives in Statistical Modeling and Data Analysis, Springer, Heidelberg-Berlin: 巻数無し、査読有、211-218.
- 7、大谷いづみ、2011、「いのちの教育： 臓器提供を「訓育」する装置？ カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』を「豚のPちゃん」の教育実践とともに読み解

- く」『立命館産業社会論集』査読有、47巻1号、237-258
- 8、天田城介 . 2011 . 「老いをめぐる新たな人権の在処 統治される者たちの連帯をもとに介入すること/奪い返すこと」市野川容孝編『人権の再問』(『講座 人権論の再定位』第1巻). 法律文化社 . 査読無、47-73 .
 - 9、天田城介 . 2011 . 「生きることを可能にする / 困難にする家族 悲鳴が折り重なる場所」太田出版発行『atプラス』06(2011年2月号) . 査読無、71-86
 - 10、天田城介 . 2011 . 「個室での人々の実践を読み解く」. 社団法人日本医療福祉建築協会発行『医療福祉建築』2011年10月号、査読無、1-5.
 - 11、天田城介 . 2011 . 「「ケア」と「承認」を結びつけている仕掛け」日本理論社会学会発行『現代社会学理論研究』第5号、査読無し、16-29
 - 12、崎山治男「<心>を求める社会」『社会学評論』61-4, pp.440-454, 2011、査読有
 - 13、出口剛司 . 2011 「批判理論の展開と精神分析の刷新：個人の終焉から新しい個人主義へ」『社会学評論』 .61-4. 査読無、 pp.422-438.
 - 14、中里裕美、2011、「非営利組織の活動におけるソーシャル・キャピタルの「よさ」 地域通貨組織を事例に 」『立命館産業社会論集』, 47 巻 1 号 , 査読有り、157-172 .
 - 15、中里裕美・平本毅 . 2011 「実践コミュニティとしての地域通貨組織への会員の参加構造と組織のパフォーマンスの関係 スウェーデンのLETS組織を事例として 」『ノンプロフィット・レビュー』11巻1号、pp.1-10、査読有
 - 16、天田城介 . 2010 . 「社会学の問い方への問い」社会学研究会発行 . ソシオロジ編集委員会編集『ソシオロジ』167号 . 93-102、査読有
 - 17、OTANI Izumi, 2010, " 'Good Manner of Dying' as a Normative Concept: 'Autocide,' 'Granny Damping,' and Discussions on Euthanasia / Death with Dignity in Japan, " International Journal of Japanese Sociology , 査読無, 19: 49-63.
 - 18、天田城介 . 2010 . 「日付と場所を刻印する社会を思考する 学問が取り組むべき課題の幾つか」日本老年社会学会発行『老年社会学会』32(3) . 査読有、253-360 .
 - 19、天田城介 . 2010 . 「老い をめぐる政策と歴史」『福祉社会学研究』7 . 査読無(依頼原稿) 41-59頁
 - 20、Haruo SAKIYAMA " When Emotional Labour becomes "good": the usage of Emotional Intelligence " , International Journal of Work, Organization and Emotion 3-2, pp.174-185、2010、査読有り
 - 21、出口剛司 . 2010 . 「アクセル・ホネットの承認論と批判理論の刷新：批判理論はネオリベラリズム的変革をどう批判するのか」『社会学理論研究』第4号 . 査読有、pp.16-28.
 - 22、出口剛司 . 2010 「経験研究に向かってルーマンを内破させること(書評 佐藤俊樹著『意味とシステム』)」 . 『関連社会科学』. 第19号、査読無、 pp.113-118.
 - 23、出口剛司 . 2010 「社会的性格」「自由からの逃走」. 日本社会学会社会学事典刊行委員会編『社会学事典』丸善株式会社 . 査読無、 pp.76-77、78-79.
 - 24、出口剛司 . 2010 「一九六八年のアクチュアリティ 不在の言葉 を求めて」(レビューエッセー) . 『唯物論研究年誌』第15号 . 査読無、 pp.279-285
 - 25、中井美樹、2009、「就業機会、職場権限へのアクセスとジェンダー」『社会学評論』59巻4号、査読有、699-715頁 .
 - 26、Nakai, Miki, 2009, 'Socioeconomic and Age Differences in Women's Cultural Consumption: Multidimensional Preference Analysis.' A. Okada, T. Imaizumi, H. -H. Bock, and W. Gaul (eds.) Cooperation in Classification and Data Analysis, Springer, Heidelberg-Berlin: 第45巻第3号、査読有、179-187
 - 27、樋口耕一、中井美樹、2009、「フリーソフトウェアを用いたWeb調査の実施 - 社会調査実習における活用事例から - 」『立命館大学産業社会論集』45巻、査読有、69-82
 - 28、大谷いづみ、2009、「「尊厳ある死」を望むこと」、『福音と世界』2009-5、査読無、44-45.
 - 29、天田城介 . 2009 . 「「脆弱な生」の統治 統治論の高齢者介護への「応用」をめぐる困難」『現代思想』(2009年2月号/第37巻2号) . 査読無し、156-179 .
 - 30、天田城介 . 2009 . 「福祉供給の政策過程と実施過程」. 精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎講座編集委員会編『社会福祉原論 現代社会と福祉』(『精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎講座』第1巻(全10巻)) . へるす出版 . 213-231 . 査読無、
 - 31、天田城介 . 2009 . 「社会福祉と社会調査」. 新・社会福祉士養成講座編集委員会編『社会調査の基礎』(『新・社会福祉

- 士養成講座』第5巻(全20巻)。中央法規出版。16-24、査読無、
- 32、 崎山治男2009「感情の用法・感情による用法：感情労働概念の再構築に向けて」安部彰・有馬育編『生存学研究センター報告 8：ケアと感情労働 - 異なる学知の交流から考える』生活書院, pp.145-163、査読無、
- 33、 出口剛司 . 2009 . 「ジンメルを媒介とした社会学史の書き換えの試み ジンメルとフランクフルト学派というユニークな問題設定によせて」『ジンメル研究会会報』第14号 . 査読無、 pp.27-30
- 34、 中里裕美、2009、「第13章スウェーデン王国」『世界の市民社会2009』(山内直人編)大阪大学大学院国際公共政策研究科、NPO 研究情報センター . 巻号なし、査読無、130-139.
- 35、 中里裕美、2009、『Pajek を活用した社会ネットワーク分析』(= 原著『Exploratory Social Network Analysis with Pajek (Structural Analysis in the Social Sciences)』の6章~8章の翻訳)東京電機大学出版局 . 査読無、171-264.
- 36、 中井美樹、2008年、「職業分離と職場における権限へのアクセス ライフコースパースペクティブによる職業キャリアの分析」(中井美樹・杉野勇編『ライフコース・ライフスタイルから見た社会階層』2005年SSM調査シリーズ9、2005年SSM調査研究会、査読無、101-120頁)
- 37、 中井美樹、2008、「階層化、ジェンダー化された消費ライフスタイルと文化資本」(菅野剛編『階層と生活格差』2005年SSM調査シリーズ10、2005年SSM調査研究会、査読無、1-28頁)
- 38、 中井美樹、2008、「子育ての価値観と実践の階層差 - 公共性の視点から - 」(片岡栄美編『子どものしつけと教育戦略の社会学的研究 - 階層性・公共性・プライヴァタイズーション』、巻数なし、査読無、129-137頁)
- 39、 中井美樹、2008、「社会階層、ライフコースと子育ての負担感 - 経済ストレスと育児ストレス - 」(片岡栄美編『子どものしつけと教育戦略の社会学的研究 - 階層性・公共性・プライヴァタイズーション』、巻数なし、査読無、33-52頁)
- 40、 大谷いづみ、2008、「「安楽な死・尊厳ある死」の位置取りをめぐる」、『Pharma Medica』26(7)、査読無、47-51.
- 41、 天田城介 . 2008 . 「解かれない問い 存在 / 生存の価値をめぐる」『緩和ケア』第18巻3号(特集「老いの時代の緩和ケア どう捉え、実践するか」). 青海社 . 査読無、186-190 .
- 42、 天田城介 . 2008 . 「ジェネレーションを思想化する 世代間の争いを引き受けて問うこと」. 東浩紀・北田晁大編 . 『思想地図 vol.2(特集・ジェネレーション)』. 日本放送出版協会 . 査読無、203-232 .
- 43、 天田城介 . 2008 . 「死の贈与のエコノミーと犠牲の構造 老い衰えゆく人びとの生存という戦術」. 『現代思想』(2008年3月号 / 第36巻3号) . 査読無、82-101 . 青土社
- 44、 天田城介 . 2008 . 「老い の倫理学 老いを現出させる力能から / へ」. 日本倫理学会発行 . 『倫理学年報』第56集、査読無(依頼論文) . 63-78
- 45、 出口剛司 . 2008 「多文化社会における反転した承認関係の可能性 フランクフルトにおけるユダヤ文化再生を事例として」リムボン・東自由里・大津留(北川)智恵子・出口剛司・吉田友彦『躍動するコミュニティ』晃洋書房 . 査読無 . pp.87-126 .
- 46、 中里裕美・平本毅、2008、「スウェーデンと日本における地域通貨システムの比較 社会的効果の評価を考慮した地域通貨システムの設計に向けて」『地域学研究』第38巻2号、査読有、499-511.

〔学会発表〕(計24件)

- 天田城介、「“セーフティネット”としての戦後日本型家族の変容」、第8回日本社会福祉学会フォーラム「社会的ケアについて考える 施設・地域・家族の観点から」、2012年3月10日、龍谷大学大阪梅田キャンパス(大阪府)。
- 天田城介、「社会科学の主題としての団塊世代の老い」、日本老年社会学会第53回大会ワークショップ「団塊世代の老い」、2011年6月16日、ハイアットエージェンシー東京(東京都)。
- 天田城介、「ケアと承認をめぐる係争点 承認するなら金をくれ!で終わらないこと」、日本社会学理論学会第5回大会シンポジウム、2010年9月5日、長崎大学(長崎県)。
- 天田城介、「制度を社会学的に診断する 高齢者医療福祉実践の歴史と現在」、人間・環境学会(MERA)建築社会学を考える委員会主催研究会、2010年4月18日、大阪大学中之島センター(大阪府)。
- 大谷いづみ、「J.フレッチャーとバイオエシックスの交錯 フレッチャーの anti-dysthanasia概念」(シンポジウム「生命倫理の歴史的現在 メタバイオエシックスの視点から」)、第21回日本生命倫理学会研究大会、2009年11月15日、東洋英和女学院大学横浜校地(神奈川県)

大谷いづみ,「生命倫理教育の再構築」,第21回日本生命倫理学会研究大会,2009年11月5日,東洋英和女学院大学横浜校地(神奈川県)

崎山治男「仏教ホスピスの可能性と限界」日本社会学会第82回大会,2009年10月,立教大学(東京都)

天田城介,「「老いをめぐると歴史・素描」,福祉社会学会第7回大会シンポジウム「『共助』の時代・再考」報告,2009年6月7日,日本福祉大学名古屋キャンパス(愛知県).

大谷いづみ,「高校「倫理」の教育内容と教科書編集に関わる諸問題? 「いま」「ここ」で「知を愛すること/善く生きること」を問う営み」(日本哲学会第68回大会),2009年5月17日,慶応大学三田キャンパス(東京都)

Haruo Sakiyama, Takeshi Deguchi et.al. An Experience of Buddhism based Palliative Care3: Reconsidering the Social Consciousness of Religion, European Association of Palliative Care, 第11回大会, 2009年5月9日, ウィーン市(オーストリア)

Haruo Sakiyama Takeshi Deguchi et.al. "An experience of Buddhism based palliative care 1: How nurses see the role of Bonze at Vihara Unit?" European Association of Palliative Care, 第11回大会, 2009年5月8日, ウィーン市(オーストリア)

Haruo Sakiyama, Takeshi Deguchi et.al. In experience of Buddhism based palliative care 2: How Buddhism priest see their Role in CPU?, European Association of Palliative Care, 第11回大会, 2009年5月8日, ウィーン市(オーストリア)

[図書](計22件)

- 1、大谷いづみ, 2012, 「尊厳死」高橋恵子ほか編『発達科学入門3 青年期～後期高齢期』, 東京大学出版会, 280-281.
- 2、天田城介・村上潔・山本崇記編『差異の繋争点 現代における差別を読み解く』ハーベスト社, 2012年, 全298頁
- 3、中井美樹, 2011, 「ライフイベントとジェンダー格差」佐藤嘉倫・尾嶋史章編『現代の社会階層 1 格差と多様性』, 東京大学出版会, 143-159頁
- 4、玉井真理子・大谷いづみ編 2011『はじめて出会う生命倫理』有斐閣, 321ページ.
- 5、天田城介・北村健太郎・堀田義太郎編, 『老いを治める 老いをめぐる政策

- と歴史』生活書院, 2011年, 全530頁.
- 6、天田城介, 『老い衰えゆくことの発見』角川学芸出版, 2011年, 全254頁.
- 7、出口剛司, 2011, 「社会的性格」早川洋行編『よくわかる社会学史』, ミネルヴァ書房, pp.45-59
- 8、出口剛司, 2011, 「社会とコミュニケーション」鈴木健編『コミュニケーションスタディーズ入門』大修館書店, pp.64-86
- 9、中里裕美, 2011, 「社会ネットワークとコミュニケーション」鈴木健編『コミュニケーションスタディーズ入門』大修館書店, pp.181-203
- 10、大谷いづみ, 2010, 「「尊厳死」思想の淵源 J.フレッチャーとバイオエシックスの交錯」小松美彦・香川知晶編『メタバイオエシックスの構築へ 生命倫理を問いなおす』NTT出版, 209-233.
- 11、天田城介, 『老い衰えゆくこと の社会学 [増補改訂版]』多賀出版, 2010年, 全692頁.
- 12、早坂裕子・広井良典・天田城介編, 『社会学のつばさ 医療・看護・福祉を学ぶ人のために』ミネルヴァ書房, 2010年, 全260頁.
- 13、天田城介, 2010, 「底に触れている者たちは声を失い, 声を与える 老い衰えゆくこと をめぐる残酷な結び目」宮内洋・好井裕明編, 『当事者 をめぐる社会学 調査での出会いを通して』北大路書房, 121-139.
- 14、天田城介, 2010, 「社会福祉と社会調査」, 新・社会福祉士養成講座編集委員会編『社会調査の基礎 [第2版]』中央法規出版, 09-17頁.
- 15、大谷いづみ, 2009, 「死の教育」「尊厳死」望月昭・中村正・サトウタツヤ編『「対人援助学キーワード集」』晃洋書房, 95-96, 139-140.
- 16、崎山治男, 2009, 「社会問題と福祉」友枝敏雄編『新社会福祉士養成・社会理論と社会システム』中央法規出版, pp.191-203)
- 17、大谷いづみ, 2008, 「生権力と死をめぐる言説」島藺進・竹内整一編『死生学とは何か』, 東京大学出版会, 53-73.
- 18、大谷いづみ, 2008, 「生きる権利・死ぬ権利 だけでなく」上野千鶴子・大熊由紀子・大沢真理・神野直彦・副田義也編『ケアという思想』, 岩波書店, 195-210.
- 19、天田城介, 2008, 「老い衰えゆくことをめぐる人びとの実践とその歴史 私たちが自らを守らんがために現われてしまう皮肉かつ危うい事態について」.

上野千鶴子・大熊由紀子・大沢真理・神野直彦・副田義也編『ケアすること』(『ケア その思想と実践』第2巻(全6巻))岩波書店・173-198.

- 20、崎山治男.2008.「感情の管理」井上俊・伊藤公雄編『自己・他者・関係』世界思想社、pp191-210、
- 21、崎山治男他編.2008年.『<支援>の社会学』青弓社、総236頁

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

景井 充 (KAGEI MITSURU)
立命館大学・産業社会学部・准教授
研究者番号：30340483

(2)研究分担者

大谷 いづみ (OTANI IZUMI)
立命館大学・産業社会学部・教授
研究者番号：30454507

中井 美樹 (NAKAI MIKI)
立命館大学・産業社会学部・教授
研究者番号 00241282

天田 城介 (AMADA JOSUKE)
立命館大学・先端総合学術研究科・准教授
研究者番号：70328988

崎山 治男 (SAKIYAMA HARUO)
立命館大学・産業社会学部・准教授
研究者番号 20361553

(3)連携研究者

出口 剛司 (DEGUCHI TUYOSHI)
明治大学・情報コミュニケーション学部・准教授
東京大学大学院人文社会系研究科・文学部社会学研究科・准教授(2011年度より)
研究者番号：40340484

中里 裕美 (NAKAZATO HIROMI)
明治大学情報コミュニケーション学部
・准教授
研究者番号：20555586